



爲

青山

青沼

青柳

青野

畧譜

卯

附天方

二百十一冊内

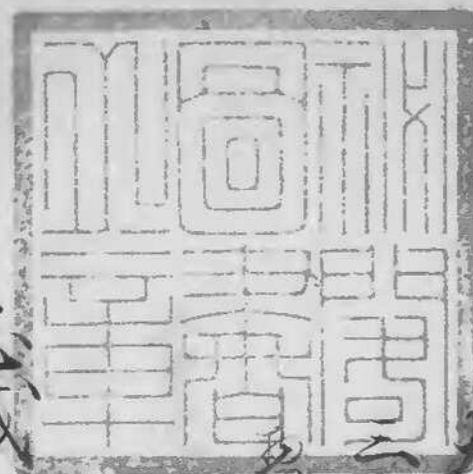
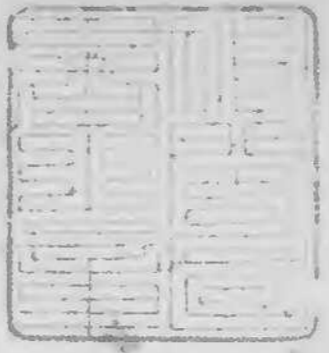
庫文閣内	
一五六函	三六〇八八
二一	二一八
架	冊
	號
	類
七五一才	



内閣文庫	
番號和	36088
冊數	211(156+)
函號	156 17

共十二

411
369



志成

友东姓

青山



高百表

象致 細編角葉角
一文字

大職冠徳足赤源青山翁人依師重後流
二河玉額田那百村何人青山志
名須

按磨子 常陸介 為右衛門 友七郎

東照宮（古宮）初年（享和）山姥父志門

元龜二年四月二十日甲辰由遠（先）

津村山伯（名）山孫三所（信）軍勢（令）

我（舟）使福山（左）之敵（武）人（討）取（原）

多負（同）月（方）死（同）年（辨）家（傳）天

正九年（辨）

台徳院殿（御）之案（之）傳（同）十八年（正月）音

以初年（高）以（之）始（之）依（年）同（年）二月

十日尚（東）陣（依）年（同）七月（又）

國（元）以（平）之（志）御（事）依（年）之

中（付）命（七）先（進）以（府）志（之）

長（増）守（以）建（之）惠（年）以（同）月（十九）日

相（持）是（高）米（比）而（石）物（同）以（以）為（物）

長（為）京（此）村（高）宅（比）之（物）今（在）也（同）年

九年（辨）

台徳院殿（以）之（終）依（年）同（二十）年（二月）辨

相（次）米（比）以（判）物（乃）裁（同）年（辨）終（地）

代（御）進（夜）以（為）守（依）年（之）辨（同）

年八月十五日

右德院殿以上洛依年同年十月 遷御之

相取玉繩之先也 以藤原之系以文祿二
年

右德院殿以上洛依年 謂在洛之科也 以取之

亦在右加秩物 同三年 謂叙任常陸

介 同三年 乃在洛 同四年 月日

遷御 依年 乃長為年 六月 日

右德院殿以上洛依年 同年八月 日

右德院殿依年 上田 以陣依年 亦在洛 日

以上洛 乃依年 同二年 二月 日

能少能内 乃加秩 乃在洛 同三年

乃在洛 乃依年 乃在洛 乃依年 乃在洛 乃依年

乃在洛 乃依年 乃在洛 乃依年 乃在洛 乃依年

乃在洛 乃依年 乃在洛 乃依年 乃在洛 乃依年

同八年六月 日

右德院殿 乃依年 乃在洛 乃依年 乃在洛 乃依年

右德院殿 乃依年 乃在洛 乃依年 乃在洛 乃依年

途志成宅（公乃成日嘗）

台德院殿清村山系入系山視屏屏榻（葵村改考）

元吉山少母志格亦小利也
内茶丸丸卷後年款之
同朝 還朝

村發和娘君村止有望日山内殿同九年七月

十七日

大猷院殿清村誕生（月日初）山王（村官系）

還朝之何志成宅（清村）同十年二

月廿日

台德院殿山三信（信年）年月日不知志成

宅（清村）長山系入（小病後）物山系入

上經日山後娘道（信）還朝（同十年）

正月廿五日丙辰修程元清成（信）

本照實事遠（信）

台德院殿山勳元同年十月二十日元同

十八年二月廿日死（拾）案依（信）

增（信）与位解方丈（信）

志次

後七郎

初屋住之文徳四年四月十九日死十九
歳

志後

伯父

吉山乃姓也志裕之祖

泰次

孫左衛門

相宗為左衛門泰裕之子

幸成

大納言

吉山大納言幸成之祖

通志

天方後前

左衛門

吉山

五年正月母方苗字稱天方

初年三月台右之如左仕の長八

年不詳十月不詳某日

东照会御上洛之儀事。同十年十一月廿六日

總領事百石米代物。同十三年九

月五日加秩斗百石拾石。同十八年不詳

分知子五百石合式子五百石拾石。同十

九年十月不詳大坂御陣儀事。元和元年

六月七日大坂御陣之儀

台徳院御儀事仕天皇奉表高橋邊馬書川

長三節と一節之右衛門左大臣遠江守

敵と勝と合甲首一付先平後敵不勝死

打込不知通是甲之持之右之方中

表と右通は流矢死絶して為る御

事未死系从地して生先付知る

以方不知尚意して山和喜山大勢少

捕は長胡笠夜高橋御儀事候と云ふ事

候と云ふ事有り別平と云ふ事討死首訂

提案向御陣場御首訂掃系御首訂

以御思及首訂系候御首訂

相之於 街前邊心院人子相之於
之之昌年首控山北中必以二月首其
場之控至也陣局之司各山在後戰四
口後被之由何前也四名之釋未邊心院人
為邊是等之同之之了之知首何者
經四地而附以中中何之年月是知以書
院數之元和六年正月細以水姓組之改
同九年正月細以書院數之改之同年
九月細以西九勅之寬永三年六月細以

台德院數也之何依年之同年十月廿二日初何
何初也之改之同七年十月廿二日死年
二業也家不之松守其後少名川蓮死
年之改年

天方之也

俱通
初修也

寬永三年 初九日九業之與初也之同七年

通周

源右左衛門

源右衛門

明應二年八月廿二日御免
堀越中七右利長。孝子

天守子。三郎左衛門 嘉平才

致通

和通免

現子

寛文四年丁丑月廿五日。九歳。命初名。延
宝二年三月十九日。山姥祖。同七年
十二月十日。源守。天和二年三月廿八日。

恒号。同年十月廿九日。二十七歳。若山
蓮花守。孝子

景保

左左衛門

源三郎

右左衛門

御名。御名。心豊。明孝子。後孝子。庚子。忌
年。右左衛門。景好。孝子

利雄

内膳助

主税

左左衛門

延喜二年七月廿日初九日後堀市心
通國者子成

善山子馬

右所之傳

成展

初通深又成房又初通

安善山為系幸隆四男

天和二年七月廿日者子同年十二月
十二日遷移山意後同三年二月廿日初九

元祿二年四月廿日果姓組同三年
八月十日相之數同年九月十八日
病先同四年三月十八日書院數
同七年七月十日矣又善山為系通塞
江初有以牙 冒見遠惠同年八月
晦。山先同九年四月廿日為政三
初令三枚。山德元年四月廿日為三
大的山先令三枚。同四年十一月廿日
大故山月代。同五年二月廿日為

同年十月十五日改稱曰高保二年四月
 五日奉和命以。同四年四月三日奉
 和命以和止。同六年二月十八日使
 同年七月廿日改曰自代。同年同
 七月朔日改。同七年二月廿日改。同
 同年年十二月十八日布衣。同十四年八月
 十八日改。同月廿日改。同
 十六年二月十八日改。同
 七年六月十二日奉命改。同十年

二月廿五日病先帝命。同年年六月十二日
 病先帝命。同年年六月十二日

遠江守 長政部 主稅 守官

後延

初通意 又英通 又志英

亮等

寶永六年四月六日奉命改組。同七
 年四月廿五日改。同
 六月十二日奉命改。同

年二月十四日... 同八年
十月二十日... 同八年
月十日... 同八年
代同年九月... 同八年
十五日... 同八年
六月... 同八年
付... 同八年
安永三年... 同八年
新... 同八年

有... 同八年
同四年二月... 同八年
不... 同八年
... 同八年
... 同八年
六月... 同八年
月... 同八年

孝恭院殿... 同八年

通賢

外化

見至志義山傳之長安永四年三月
女二百兩為丸山書院為厚田物十部及
河原中

幸延

丹下

長三節

善山丹下幸房書子

好延

次在節

子規

羊好次節友書好延書子

志計

長次節

母信

土月綱目
明和七年
二月四日致書○天明三年土月十三日
去申年日先社系相傳以為四教改

易四光。同七年。二月廿二日。第一橋殿。夜。
高百依。同年。四月十三日。皇孫。同年。
十月廿五日。近。皇孫。

通一

以子所

安永四年。二月廿二日。改易。同七年。二月
十二日。天保三年。十一月十三日。改易。光

忠愷

子所

忠彬

長之進

高山の母の忠愷の長女

大森屋敷

改題

改題

改題

有系姓

高三石 家紋

細編之内葉菊

中古の元之口日暮系姓と稱す
中野の元之口之元永年中に改
有系姓と改

志

徳和の通直侯也其年有改題
字之夫方之改題永新侯也
此石系有之元永年中
改題有之夫方之改題
改題有之夫方之改題
改題有之夫方之改題

高三石通直侯

享保六年三月廿六日山本姓組の病死者
五年一月十日百死日守身

通賢

大分庄玄信 藤十郎 新治郎

享保六年七月十九日山本姓組の病死者
年十月九日山本姓組の病死者
享保六年十月十日
死日守身

忠利

三浦重忠 藤十郎 藤十郎
山本姓玄信 田代忠

源右 山本 山本

享保六年三月廿六日山本姓組の病死者
五年一月十日百死日守身
山本姓玄信の病死者
山本姓玄信の病死者
山本姓玄信の病死者

病光の以八箇年十二月十九日没仕のり
相替の女水之原年二月七日没仕のり
二孫日守等

忠竟

喜山左衛門 彦助 左京

帯刀

宝曆八箇年十二月十九日没仕のり
年二月七日没仕のり
二孫日守等

九洲の明和七箇年十一月十日没仕のり
時辰の女水之原年二月七日没仕のり
○天保之世年二月七日没仕のり
年十二月十九日没仕のり
二孫日守等

忠朋

喜山熊之助

高田百太郎

天保六年十一月十日没仕のり

二月廿八日小姓組の要領の書年九月廿日
以て大納言の役河原の以て卯年二月廿日
小令事野牧中藤村安の惣領の月八日
二月十日卯及附

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

者京姓 高二百俵

高心

家改 葉菊 輪内葉菊

高心惣大納言成二面

高心又小部

高心

東照公の御書に西暦後天正五年
卯月長條陣田供敵に勝打丸の月八日
卯月卯日意公を自山也了依年卯年
七月を別井龍江對陣依年卯年

元禄二年三月廿二日申年に
日九日長久の位を退る事少く敵の本
勅解由と陰と公又二席股と陰と彼
る又刀麻と之を貞敵の力と奪身私治
其ととわつは十八寅年八月閏東
河内國の和敷の赤の祇を奉行計
又二席を人の河内をゆり候はる事
元禄五年十月廿二日死六拾七歳
牛久高昌院葬

源千席

重勝

元禄二年三月廿二日申年に
日九日長久の位を退る事少く敵の本
勅解由と陰と公又二席股と陰と彼
る又刀麻と之を貞敵の力と奪身私治
其ととわつは十八寅年八月閏東
河内國の和敷の赤の祇を奉行計
又二席を人の河内をゆり候はる事
元禄五年十月廿二日死六拾七歳
牛久高昌院葬

源太夫の善子は成親の末娘なり

東照天皇の御代に源太夫の御孫ありて

名はもとよと云ふなりて行状なるは

よきの御印多体候と云ふ

台便候なりては同日月分を以て

姓の之和え卯年十二月廿八日長女

其源太夫の時軍法習ふとて改易源太夫

源河原御所にて

大久保五市郎川口長之助と云ふ源太夫

幸先親の如く四直臣に侍りて

時より御代に御代に御代に御代に

御代の御代に御代に御代に御代に

御代の御代に御代に御代に御代に

御代の御代に御代に御代に御代に

御代の御代に御代に御代に御代に

御代の御代に御代に御代に御代に

御代の御代に御代に御代に御代に

御代の御代に御代に御代に御代に

改易の御深方為^しま^し一^升上^河河^子河^子河
 ら^して^し後^教教^元元^日日^三三^年年^再再^日日^三三^年年
 未^平平^姓姓^地地^形形^とと^旨旨^儀儀^とと^水水^名名^方方^をを^教教
 別^勅勅^日日^十十^二二^子子^年年^二二^月月^四四^日日^以以^てて^記記^すす
 惣^取取^旨旨^をを^御御^意意^とと^旨旨^而而^てて^申申^上上^すす
 之^をを^御御^意意^とと^旨旨^にに^申申^上上^すす
 永^享享^二二^年年^十十^月月^廿廿^日日^死死^すす
 牛^のの^一一^萬萬^四四^百百^餘餘^年年

宗長

善心源左馬

源左衛門

寛^永永^十十^二二^年年^二二^月月^廿廿^日日^死死^すす
 二^年年^十十^月月^廿廿^日日^百百^餘餘^年年
 年^六六^月月^廿廿^日日^死死^すす
 病^死死^すす
 女^孫孫^以以^てて^葬葬^すす

重廣

善心源左衛門

寛文十一年九月廿八日御免の延宗公は
同年十二月十二日御免の室水公は
三月廿四日御免の後を以て御免

重義

室水公は

室水

寛文十一年九月廿八日御免の延宗公は
同年七月廿二日御免の室水公は
三月廿四日御免の後を以て御免
死に後を以て御免

廣心

廣心公は

廣心

寛文十一年十二月廿九日御免の延宗公は
同年十二月十二日御免の室水公は
同年三月十八日御免の室水公は
六月廿三日御免の後を以て御免

廣信

廣信

廣信公は

廣信

寛保三年十一月十日^{老臣子}旨^{御書} 寛保三年七月廿九日旨^{御書} 寛保三年六月廿七日旨^{御書} 寛保三年七月十日旨^{御書} 寛保三年七月十日旨^{御書}

平和

老臣源平

敷

寛保三年十一月十日旨^{御書} 寛保三年七月十日旨^{御書} 寛保三年七月十日旨^{御書}

寛保三年十一月十日旨^{御書} 寛保三年七月十日旨^{御書} 寛保三年七月十日旨^{御書} 寛保三年七月十日旨^{御書} 寛保三年七月十日旨^{御書} 寛保三年七月十日旨^{御書} 寛保三年七月十日旨^{御書} 寛保三年七月十日旨^{御書} 寛保三年七月十日旨^{御書} 寛保三年七月十日旨^{御書}

外

之江又之節才次尾の長久の津御
のこご敵の事の中御史の陰を身丸
之江大才陰所持

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

有系此 高三百後
青心 家紋 赤菊

高心御史書

重成 高心御史書 高心御

道幹君の事仕天又十七申年二月九日
之江小豆坂之儀御史書と申合致見
高心御史書仕年〇高心御史書申年有
十日大才御史書見年〇高心御史書

清和天皇御成婚のとき、直良親王、向長を
夫、攝子の列より、御成婚の御成婚のとき、
孝を遣ひ、孝と、政の、日、い、ま、ま、年、情、り、日、七
子、年、の、四、月、ま、ま、一、向、宗、一、揆、の、時、依、ま
御、の、天、心、九、年、一、月、今、百、九、十、一、年、一、年、二
の、長、行、大、林、寺、葬

天皇

孝を遣ひ

向長

東照宮の御成婚の時、直良親王、向長を
夫、攝子の列より、御成婚の御成婚のとき、
孝を遣ひ、孝と、政の、日、い、ま、ま、年、情、り、日、七
子、年、の、四、月、ま、ま、一、向、宗、一、揆、の、時、依、ま
御、の、天、心、九、年、一、月、今、百、九、十、一、年、一、年、二
の、長、行、大、林、寺、葬

山形藩を移るるは十八箇年六月廿日
 小田原に依り敵二藩おのる事廿五年
 付以山形陣佐守山形陣佐山形陣
 山形陣中候と云ひは廿五年九月
 山形陣敵の姫系が是れ山形陣の別が枝
 る事一或の石等 姫系山形陣佐守が是
 依り山形藩に依りえの事一は廿五年
 年二月十日九箇年九箇年山形藩佐守
 并

重長

山形藩佐守

天保十二年七月の時

山形藩佐守初人の月十三箇年一は廿五年

山形藩佐守

山形藩佐守の事一は廿五年一は廿五年

山形藩佐守の事一は廿五年一は廿五年

山形藩佐守の事一は廿五年一は廿五年

東照宮 上三ノ世なり

名徳院殿宗永親王の御十八寛永六年六月廿九日
田原陣十一日來りて依るの志も甚なり
年一は使者の御九年一月田原陣出依敵
一騎打ちの御九年九月又江坂依依
改四使者の御一〇月廿九年一月廿九日
名徳院殿宗永親王の御九年一月廿九日
月一〇月廿九年一月廿九日
依の御九年一月廿九日

永年一は使者の御九年一月廿九日
日廿九年一月廿九日
寛永六年一月廿九日
陣名

東照宮の陣名

名徳院殿宗永親王の御九年一月廿九日
坂原の陣名

名徳院殿宗永親王の御九年一月廿九日
九月廿九日

振武仕了之云々同平二月改易

余裁昭書振六年余治居仕信上平出所注

有之富在仕

大御院敏成代初之云々

永承五年二月十六日使番

七月改府田月日十二日御府

年六月一柳監為

死上侍月日余之

日于其寅年二月十日

同十六卯年十一月日死之

年

二五三三山名助二四二四

三三三三山名助九郎

利改

寛永十三年二月長子

十有初日年八月出姓

年十二月子名

七月九日死

心康

政廣

心康の書

在卷

延享二年十二月廿七日

十二月廿七日

十二月廿七日

十二月廿七日

十二月廿七日

十二月廿七日

盛長

初巻

心康の書

心康の書

在卷

延享二年十二月廿七日

十二月廿七日

十二月廿七日

十二月廿七日

十二月廿七日

十二月廿七日

氏姓補之於其年之官位
之故也其念之誠哉其遺力之
教也其功也其德也其功也其
多也其德也其功也其德也其
有也其德也其功也其德也其
其也其德也其功也其德也其
子年九月十八日^其也其德也其
月廿六日也其功也其德也其
吾也其德也其功也其德也其

氏姓補之於其年之官位
之故也其念之誠哉其遺力之
教也其功也其德也其功也其
多也其德也其功也其德也其
有也其德也其功也其德也其
其也其德也其功也其德也其
子年九月十八日也其德也其
月廿六日也其功也其德也其
吾也其德也其功也其德也其

長恒

長恒 宗休
長恒 宗休

貞享三年七月廿九日

の之儀は永享二年六月廿五日甲午の御慶書の日
六月廿一日辰巳の御慶書の日七月廿
一日乙未の御慶書の日八月廿一日丙申
の御慶書の日九月廿一日丁酉の御慶書の日
十月廿一日戊戌の御慶書の日十一月廿一日
己亥の御慶書の日十二月廿一日庚子の御慶書の日
以上各日御慶書

長施

長施

享保十二年三月廿五日八月廿五日甲午の御慶書の日
八月廿五日乙未の御慶書の日九月廿一日丙申
の御慶書の日十月廿一日丁酉の御慶書の日
十一月廿一日戊戌の御慶書の日十二月廿一日
己亥の御慶書の日以上各日御慶書
以上各日御慶書

長視

長視

宝曆三年十一月廿七日
年二月廿日
廿百
病

長惣

長惣

天保八年十一月廿七日
元角年
二月廿八日

長好

長好

天保八年十一月廿七日

東

者系此

之子或百石

青山

家致系南
格授

青山教大寺忠世之曾

青山半之史

牛之命

忠

年無事之百石之元永福元年十月

十日屋名丸根城攻力討追日中向月六

十五年九月一向宗之授出之日西力部

同日十五年四月日誠前教於山依

テ
○國處獄安之のえ後二年十一月
百又を故事又門日傳らる武日塚に拒
ヲキトキ
之良使礪心のよら致れ日程七未を落
ふ稱寺を尋

三心書物 平節 七古馬

成重

初志形 實昭記平亮正信の男

父致死を子持眞を母方中徳より

平亮の

東照公も侍仰より三心者七節忠成
傳子儀法成重と及を別を道徳
○天正十二年位より
名法法及傳の以十八宮年八月番東
又國後中徳東をたててを名物の文原
己未年七月の所在系初閣白秀
次道意より供ん海御信の○若長
○也年九月よりを名を名物の○は七
寛永年十月の所在系より

本館より和字の御印御子
附屬の以知年十二月叙身是書物
○以知年十二月廿四日洛依書物
年八月廿五日○以知年二月
後府の書物は○以知年十二月廿五日
加秩をそる石をそる判判○以知
子年一月
本館より和字の御印御子
附屬の以知年十二月叙身是書物
○以知年十二月廿四日洛依書物
年八月廿五日○以知年二月
後府の書物は○以知年十二月廿五日
加秩をそる石をそる判判○以知
子年一月

以知年二月政府の御印御子
以知年八月廿五日叙身是書物
以知年十月廿五日叙身是書物
以知年十二月廿五日叙身是書物
以知年二月廿五日叙身是書物
以知年八月廿五日叙身是書物
以知年十月廿五日叙身是書物
以知年十二月廿五日叙身是書物
以知年二月廿五日叙身是書物
以知年八月廿五日叙身是書物
以知年十月廿五日叙身是書物
以知年十二月廿五日叙身是書物

賽の之利之卯年九月七日死六十七歳
日村西名守年

成次

吉田十郎

満子世

長長四十年七歳あり

長徳侯殿初人の日九存年二月十三歳

より四郎小村の日十五年八月父の事

ふより山初氣と蒙の日廿九年二月

敬元と名之る合の上は長徳侯

台徳侯殿佐左行日七二及之甲首一打也
河野陣後伏見あり合首名物の日年
九月七日父過賽中死名務河より日
年十一月廿日河前より徳以列在夜
致切始末とて討決まふ大徳中補之世
二宮御説人より日年十二月
亡父山原下結末五郡日佐田村産養村
新地より名物の之利之卯年八月廿日
平家平助の日西名守年八月廿日世

同九年九月九日初の寛永之寛永
二月廿五日迄依之同日九申年二月
台後院殿國司之御令之推五物の日年十二
月大書の日十二卯年一月廿七日大
地在書中一此字様七集小石川等書
并

成國

成國之長子名人多此後田邊彦彦
多此長子名多保為子帝一此見

美奈原長子多保為子
多此長子名多保為子

才也成之長子名多保為子
多此長子名多保為子
九月切腹

成政

喜七太夫 大物 七卷

寛永十六卯年十二月九日
大御所御初之御守居之死の御保言
年三月十五日奉之太書の御保言
二月廿九日奉書御保言の御保言

△金部書

同月廿七日文科部百保と実保との元禄
十四年二月廿八日申分品法地以の内
年十二月十八日卯夜の日に至卯年正月
十日之末と實部收帳百九種取物の日十
三年二月廿七日卯夜の内年宵
其の元七種取物日宵等

成浩

長尾重忠 左衛門 傳平
寛文二箇年二月十八日初人の天和二年

成意

初成科

元禄十四年十二月九日書屋屋告の
日七戌年正月九日と百保の日年
二月嫡孫取物の日年十月廿八日相与
出書の日十五年二月九日と百保の日年
○同年四月廿七日と百保の日年

七月廿五日...
 八月廿五日...
 九月廿五日...
 十月廿五日...
 十一月廿五日...
 十二月廿五日...

成福

庚子年七月...
 庚子年八月...
 庚子年九月...
 庚子年十月...
 庚子年十一月...
 庚子年十二月...

庚子年六月...
 庚子年七月...
 庚子年八月...
 庚子年九月...
 庚子年十月...
 庚子年十一月...
 庚子年十二月...

成存

和成久成就
 庚子年六月...
 庚子年七月...
 庚子年八月...
 庚子年九月...
 庚子年十月...
 庚子年十一月...
 庚子年十二月...

明正徳の元暦壬寅年九月廿二日庚辰
康保元年四月廿二日卯辰
享和元年十二月廿二日
天保元年十二月廿二日
文政元年十二月廿二日
天保元年十二月廿二日
天保元年十二月廿二日
天保元年十二月廿二日
天保元年十二月廿二日
天保元年十二月廿二日

天保元年十二月廿二日
天保元年十二月廿二日
天保元年十二月廿二日
天保元年十二月廿二日
天保元年十二月廿二日
天保元年十二月廿二日
天保元年十二月廿二日
天保元年十二月廿二日
天保元年十二月廿二日
天保元年十二月廿二日

成滿

印 成芳

享和元年十二月廿二日

天保元年十二月廿二日

宝曆己戌年十一月廿二日初八日
之酉年七月二十日
改日二戌年二月廿六日

威昌

如安文

子子如百石

真心内記

主約

百石

寶曆二戌年六月廿九日
年九月廿二日
姓如月廿九日

持歸子如子
同年十一月廿七日

卷四

藤原姓

高貴百俵

喜心

家教
抱菊
枯杖

喜心傳師成次二男

成親

喜心傳師成次

慶安四年十月六日彩式百俵納
法福院及寺社總司正室之并年正月
廿九日自丹加保百俵の自京元子子
二月十九日甲府少々社公自較之程式

朱江守年也宗柏子孫

成明
貞安

其行年表及宗嗣表
正徳九年

正徳九年

天和元年八月廿七日、年長子の國之
元年九月廿二日、掃田くし初之の自置
元年、父社公自教、法其くはく、日三
也、年十下り、身、金足りて、右前流
長父、法其く、さく、さく、由る、山、水、社、絶、の
日、正徳元年、正月、晦、朝、武、百、儀、物、の

之、和、子、卯、年、十一月、七日、病、死、の、

文、隆、年、卯、年、卯、年、卯、年、十一月、廿、日、

半、人、保、の、山、徳、の、乙、卯、年、十一月、廿、日、病、死、

の、保、十、巳、年、十一月、廿、日、病、死、七、十、一、歳、

口、年、廿、一、

成胤

正徳九年
福和

室、昭、の、世、年、卯、年、卯、年、卯、年、卯、年、
保、十、巳、年、九月、二、日、病、死、の、口、年、廿、一、

行以庚子年六月廿三日
年四月廿五日之依の元文元年十二月
月廿日福文の元暦の壬子年十二月廿
六日没仕の而此之元年六月廿日死
年十一月廿日葬

成歳

三山田花

元暦の壬子年十一月廿日没仕の而此之元年六月廿日死
年十一月廿日葬

奇葬

成房

元暦の壬子年十一月廿日没仕の而此之元年六月廿日死
年十一月廿日葬

三山田花

三山田花

元暦の壬子年十一月廿日没仕の而此之元年六月廿日死
年十一月廿日葬

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including names and dates.

藤原姓

高七百名

高心

家紋 石持 石持 石持

音心播磨守丸成四男

幸成

高心大系藤原

幸隆

高心友花

源氏家訓

和杉八助

寛永十八年八月九日

養老院殿聖徳の討十二集より出小姓の
 口安永年六月七日彩田知事名石の答
 安二五年八月日之西依の以之宮年
 九月之西名宗姓總之宮文之卯年八月
 日之西依の以中申年八月之宮年
 城門後以之西依の以中申年七月之
 右後宮年八月七日之西依の以九月年正月
 瑞府の宮年三月年八月之宮年
 多事好の同年十二月之宮年

元禄七年七月十九日水宮の御
 事より通案十月八日先の以九月年二月
 乃西宮止の在之御令の以十四年正月
 あり取仕之西依の宮年九月
 高多死七種古来より山崎意院等

幸遊

高松府元 市十師 市比等
 延宝八年八月七日河内の人右和之宮
 九月十日之西宮後昔の元禄十四年

死七種九條因守身

善く心を用ひて徳を修む

善く心を用ひ

徳を修む

幸死

徳者 宗休

寛政之元年二月七日若子の家曆七
五年十二月十二日若子の家曆九月十六日
若子の家曆十月十二日若子の家曆十一月十六日
○以和子年十一月十日若子の家曆十一月十六日
若子の家曆十一月十七日若子の家曆十一月十八日
若子の家曆十一月十九日若子の家曆十一月二十日
若子の家曆十一月二十一日若子の家曆十一月二十二日
若子の家曆十一月二十三日若子の家曆十一月二十四日
若子の家曆十一月二十五日若子の家曆十一月二十六日
若子の家曆十一月二十七日若子の家曆十一月二十八日
若子の家曆十一月二十九日若子の家曆十一月三十日

徳死の長き死無新之節 若子の家曆十一月二十三日
若子の家曆十一月二十四日若子の家曆十一月二十五日
若子の家曆十一月二十六日若子の家曆十一月二十七日
若子の家曆十一月二十八日若子の家曆十一月二十九日
若子の家曆十一月三十日若子の家曆十二月一日
若子の家曆十二月二日若子の家曆十二月三日
若子の家曆十二月四日若子の家曆十二月五日
若子の家曆十二月六日若子の家曆十二月七日
若子の家曆十二月八日若子の家曆十二月九日
若子の家曆十二月十日若子の家曆十二月十一日
若子の家曆十二月十二日若子の家曆十二月十三日
若子の家曆十二月十四日若子の家曆十二月十五日
若子の家曆十二月十六日若子の家曆十二月十七日
若子の家曆十二月十八日若子の家曆十二月十九日
若子の家曆十二月二十日若子の家曆十二月二十一日
若子の家曆十二月二十二日若子の家曆十二月二十三日
若子の家曆十二月二十四日若子の家曆十二月二十五日
若子の家曆十二月二十六日若子の家曆十二月二十七日
若子の家曆十二月二十八日若子の家曆十二月二十九日
若子の家曆十二月三十日

利發



幸殺

善く心を用ひ

徳を修む

寛政十年八月廿九日

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

藤原姓

之三百石

青山

家紋

葉菊
石解内九曜

青山家系 幸隆二男

青山家系 信和 左衛門尉

後七郎

陽春 宗智

幸度

之福江末一年二月廿九日相方宗智三男
保の同年九月廿九日少納言の同年十月
二日少納言の同年十二月廿八日少納言
若の同年三月廿七日有之百石分知

来之音信取公の室水之成年二月病死
○延徳三年二月書院告の享保十
八二年二月老女（後）の十八四年八月十
日自志心氏に改○日平卯年十二月十日
致仕利根の寛保戊午年二月十日死
半由來志心梅屋屋屋

幸種

志心忠臣

享保丁卯年十二月十日自志心○元文之

午年十二月十日自志心組○延享元年
寅月十日（卯）自志心組○明和元年二月
十日自志心給志心因奇事

幸高

実高所下信子手教二男
志心采女 豊次郎 志郎
源后之采女

寛保之元年二月十日自志心子○明
和元年二月十日自志心組○日之成年
六月七日自志心組の女水之元年

十二月廿七日丙午の定改之角年四月
廿二日改仕の因申年十二月廿九日
卯集因守身

幸飽

美知保家者凡為之教也
青山之結

古之師

壬午年七月廿七日
乙酉年四月廿二日
十二月廿七日
乙酉年七月廿七日

乙酉年七月廿七日
乙酉年七月廿七日
乙酉年七月廿七日

大正

有東姓

高五千五百

三三

家次九曜

三三三三三三三三三三

幸通

三三三三三三

三三

三三

三三三三三三三三三三

三三三三三三

三三三三三三三三三三
三三三三三三三三三三
三三三三三三三三三三

二月廿七日... 三月... 四月... 五月... 六月... 七月... 八月... 九月... 十月... 十一月... 十二月...

有... 日... 月... 年... 日... 月... 年... 日... 月... 年... 日... 月... 年...

慶長十一年十月十日徳忌利地力能寺代心持備

大納言殿へ七月廿九日申す事

常憲院殿へ七月廿九日申す事

河津守殿

此等御用度御取立地金書付申す事
其御用度御取立地金書付申す事
徳忌利地力能寺代心持備

寛永二年八月廿九日

文庫院殿御用度御取立地金書付申す事

有楽院殿御用度御取立地金書付申す事

二宮守殿

徳忌利地力能寺代心持備

来

慶長十一年十一月廿九日申す事

寛永二年十一月廿九日申す事

徳忌利地力能寺代心持備

小宮守殿

幸軍

幸房守殿

監物 丹後守

寛永二年十一月廿九日申す事

年九月百大書改の定章二五年
二條上書中ハ以テ暫 禁社ノ律ニ因リ
卯年十二月ハ以テ出テ為ラテ定章ニ已
年十二月九日為テ合ノ天所ニ卯年二
月二日死ハ拉シテ本以テ奇事

有酒後為清筆行ハ後後

幸齋

音心大學子 一乃師 為松

幸贊

定章之存年ハ以テ後改ノ以テ也
年十二月九日初見ノ以テ也年八月
海日死シテ後ハ以テ奇事

幸省

音心大學子 為八 為人 師

初天字氏と冒稱
明徳二年九月廿二日忽死ノ奇事

申年六月廿三日死日午時

葬

葬

重徳院 玄九師

了りおのり名

女中申年七月六日始終美以の存

乙卯年六月廿一日母の卒後二成後

九月六日母の死日午時二月廿六日

女中後及り申年六月廿一日始終美以の存

藤原姓

高平

青山

家紋 九白 九唯

青山大花女補重成之男

青山大花女補重成之男 権松内記 重成

葬方

葬方

寛永二箇年月初七日十八日午時

重徳院の以て申年七月六日始終美以の存

知り女中申年七月六日始終美以の存

女中の寛文元年四月廿一日始終美以の存

○同治九年四月日支依○同十二年
正月廿一日宗姓領書以○同年十二月廿八日
叙對○延慶七年十一月廿九日叙對
○同和成年四月廿五日叙對石○同
二年十一月十六日叙對○同宣統
二年七月廿七日叙對○同梅名從書

書

書心經漢字

百物

存卷

同宣統二年七月十日叙對○同宣統
二年七月十日叙對○同宣統二年十二月
廿五日叙對○同宣統二年十二月廿五日
叙對○同宣統二年十二月廿五日叙對
○同宣統二年十二月廿五日叙對○同宣統
二年十二月廿五日叙對○同宣統二年十二月
廿五日叙對○同宣統二年十二月廿五日叙對

三月廿九日... 四月九日... 地... 昇

幸亮

英成 幸亮

正徳

宝永... 享和... 文政... 天保... 嘉永... 安永... 享和... 文政... 天保... 嘉永... 安永...

宝永... 享和... 文政... 天保... 嘉永... 安永... 享和... 文政... 天保... 嘉永... 安永...

享慶元年十一月廿八日
度守以形名御二日形増國日之商
年九月朔日太正番以同に成年宵
十二日泊回東原舟中より通塞八日
教之。以下辰年二月百九日程之案
五山梅窓院舟

享儀

五山梅窓院舟 今係一丸結

元文二年十一月廿七日初八日
年十一月廿七日初九日辰年舟

享元

成昭

維版

五山梅窓院舟

辨之助

享元二年十一月廿七日初八日
日之享元年九月廿七日初八日
年六月廿七日初八日
九日坊之舟
惟元院舟之舟八日初八日

三百年九月朔、波府如昔、出所、日記、亥
年九月廿九日、佛指、同日、巳年、二月
廿九日、死、後、歲、同、寺、葬

幸慶

三百年日記

名庫

安永九年十一月廿七日、初、入、寺、所、之
也、年、死、之、後、三、年、日、寺、葬

三百年日記

幸賢

三百年日記

名庫

三百年七月六日、若、子、の、日記、在、年
同、日、女、の、日記、の、日記、三、年、十二月、二、日
中、島、小、姓、の、日記、三、年、二月、八、日、叙、封
の、日記、三、年、十月、廿、日、功、賜、野、指、指、の
概、子、の、日記、三、年、十一月、廿、日、酒、也
若、子、の、日記、三、年、十一月、廿、日、漢、字、の、助
以、後、三、年、十二月、廿、日、小、姓、村、の、日記、也
三、年、十二月、廿、日、三、年、十二月、廿、日、小、姓、村、の、日記、也
三、年、十二月、廿、日、三、年、十二月、廿、日、小、姓、村、の、日記、也

日守并

幸宣

嘉心恒次郎

嘉心子

寛政七年八月廿五日

○存照

山脈指 何景兼光 家子 山景入

右 寛政七年八月廿五日

東

藤末姓

高野百儀

嘉心

山内西郎

家次

禁中

行在丙三世

大織冠藤足之千代代上秘書房方官

定一族佐竹大守兼左義兵衛中

左衛門尉重方佐竹家長之代西郎

嘉心補佐副二官

重氏

嘉心子

官郎

氏郎

天正十一年申佐竹乃法外義重二官令

津城之若名之江中浦義彦有命は
 彦城の存義彦を以て常陸國に退き
 日圓を以ては後伊加美に領地あり
 其の孫を以て天保十年六月に
 在座文伊加美の村野名白子にて業
 同名を以てあり六月に在座別野名
 といふを以ては佐野を以ては有命
 其の孫の月十九卯に在座國依を以て
 去り水戸を以て文地方を以ては有命
 其の孫を以ては佐野を以ては有命

咸亨伊加美を以ては命を以ては有命
 其の孫を以ては佐野を以ては有命
 其の孫を以ては佐野を以ては有命
 其の孫を以ては佐野を以ては有命
 其の孫を以ては佐野を以ては有命
 其の孫を以ては佐野を以ては有命

重次

重次

寛永元子年
 六年十一月廿九日

蘇

嘉元三年

重政

嘉元三年 正月 乙未 日 公之孫 十三年
九月 乙酉 廣海 書 伊賀 乙酉 日 年
正月 乙酉 日 公 書 伊賀 乙酉 日 年
嘉元三年 二月 乙酉 日 公 孫 乙酉 日 年

易籍

嘉元三年

嘉元三年 正月 乙酉 日 公 孫 乙酉 日 年
嘉元三年 正月 乙酉 日 公 孫 乙酉 日 年
嘉元三年 正月 乙酉 日 公 孫 乙酉 日 年
嘉元三年 正月 乙酉 日 公 孫 乙酉 日 年

重直

嘉元三年

嘉元三年 正月 乙酉 日 公 孫 乙酉 日 年
嘉元三年 正月 乙酉 日 公 孫 乙酉 日 年
嘉元三年 正月 乙酉 日 公 孫 乙酉 日 年
嘉元三年 正月 乙酉 日 公 孫 乙酉 日 年

宣長

元龜元年八月廿一日
宣長

宣長

享保八年十一月廿七日
享保九年九月廿二日
享保十年七月廿三日
享保十一年十一月廿三日
享保十二年十一月廿三日
享保十三年十一月廿三日
享保十四年十一月廿三日
享保十五年十一月廿三日
享保十六年十一月廿三日
享保十七年十一月廿三日
享保十八年十一月廿三日
享保十九年十一月廿三日
享保二十年十一月廿三日

享保二十一年十一月廿三日
享保二十二年十一月廿三日
享保二十三年十一月廿三日
享保二十四年十一月廿三日
享保二十五年十一月廿三日
享保二十六年十一月廿三日
享保二十七年十一月廿三日
享保二十八年十一月廿三日
享保二十九年十一月廿三日
享保三十年十一月廿三日
享保三十一年十一月廿三日
享保三十二年十一月廿三日
享保三十三年十一月廿三日
享保三十四年十一月廿三日
享保三十五年十一月廿三日
享保三十六年十一月廿三日
享保三十七年十一月廿三日
享保三十八年十一月廿三日
享保三十九年十一月廿三日
享保四十年十一月廿三日

瑞府正(三)方(一)波(一)日(一)月(一)女(一)子(一)名(一)緒(一)氏
 (一)寛(一)延(一)之(一)辰(一)年(一)十(一)二(一)月(一)廿(一)五(一)日(一)没(一)物(一)別(一)書
 幼(一)年(一)志(一)積(一)骨(一)朽(一)方(一)合(一)三(一)枚(一)〇(一)宝(一)曆(一)重
 年(一)十(一)二(一)月(一)廿(一)六(一)日(一)没(一)用(一)物(一)結(一)方(一)上
 祿(一)不(一)違(一)今(一)三(一)枚(一)〇(一)口(一)口(一)成(一)年(一)十(一)二(一)月(一)十
 八(一)日(一)没(一)方(一)有(一)法(一)格(一)別(一)四(一)五(一)條(一)之(一)常(一)々
 如(一)法(一)初(一)方(一)或(一)百(一)條(一)之(一)子(一)如(一)秩(一)〇(一)日(一)七(一)五(一)年
 十(一)月(一)十(一)日(一)有(一)志(一)勲(一)定(一)以(一)味(一)及(一)〇(一)日(一)年(一)十(一)月
 十(一)日(一)没(一)在(一)海(一)在(一)勲(一)川(一)〇(一)書(一)信(一)用(一)時(一)叙

二海(一)威(一)令(一)子(一)叙(一)〇(一)日(一)年(一)十(一)月(一)廿(一)八(一)日(一)没(一)方(一)上
 八(一)箇(一)年(一)十(一)月(一)十(一)日(一)没(一)方(一)合(一)拾(一)枚(一)別(一)辰
 上(一)〇(一)勲(一)川(一)〇(一)書(一)信(一)示(一)之(一)巨(一)骨(一)行(一)時(一)叙
 武(一)〇(一)日(一)年(一)十(一)二(一)月(一)之(一)没(一)水(一)〇(一)辰(一)叙(一)〇(一)書(一)信(一)也
 用(一)〇(一)日(一)九(一)卯(一)年(一)九(一)月(一)十(一)八(一)日(一)没(一)〇(一)書(一)信(一)也
 用(一)〇(一)日(一)年(一)十(一)二(一)月(一)廿(一)五(一)日(一)没(一)水(一)〇(一)辰(一)叙(一)成(一)切
 〇(一)辰(一)叙(一)合(一)或(一)叙(一)〇(一)日(一)十(一)辰(一)年(一)十(一)二(一)月(一)廿(一)五(一)日
 死(一)〇(一)辰(一)叙(一)合(一)或(一)叙(一)〇(一)日(一)十(一)辰(一)年(一)十(一)二(一)月(一)廿(一)五(一)日

以之品法施以。

明和二年三月十日英大の方死之由を
後宮省に申す。

○以之品年七月十八日内務省に申す
上院時報に

○安永二年二月六日内務省に
或は月廿八日あり今之段

○明和二年三月廿七日に
村上院に申す

安永二年

長以

長以

長以

又七席

初宣時

結登

明和二年七月十日長子の四年十月
形、山、河、戸、月、月、十日、小、性、女、水、之、辰
年、二月、十日、長、子、之、由、申、す、後、之、由、申、す
當時、長、子、之、由、申、す、後、之、由、申、す

常世の事知らざるを初二〇日二二二年
十一月五日教書の中記末年十一月九日
鎌倉幕府を定むるに初二〇日甲申年四月
日之出流中月より下流界にありて初
之に麻痺症に病入多しを初後初
思ふ人其初二〇日年十一月七日た
い初古の結力なり上流に感する麻痺
之に初尾之麻痺初年行に初中物月
初年十一月八日首の初初初初初

人々之を初初初初初初初初初初初
八百五十名を初初初初初初初初初
同年八月廿七日初初初初初初初初初
初初初初初初初初初初初初初初初
初初初初初初初初初初初初初初初
初初初初初初初初初初初初初初初
初初初初初初初初初初初初初初初
初初初初初初初初初初初初初初初
初初初初初初初初初初初初初初初
初初初初初初初初初初初初初初初
初初初初初初初初初初初初初初初

砂花局の日記に、本年十二月十日を以て
取向の記録が終る物と、以て本年
分は十日を以て画の終る物と、實に七年
一月の火令を以て終る物と、
若くし、度々あり、以て七年二月十日
若くし、姓以て、以て七年三月十日
大領に叙せられたる物と、以て七年
年四月十日を以て、告知中、終る物と、
同年四月十日を以て、以て、以て、
以て、以て、以て、以て、

物誌

○本年三月十日、以て、以て、
○本年四月十日、以て、以て、
○本年五月十日、以て、以て、
○本年六月十日、以て、以て、
○本年七月十日、以て、以て、
○本年八月十日、以て、以て、
○本年九月十日、以て、以て、
○本年十月十日、以て、以て、
○本年十一月十日、以て、以て、
○本年十二月十日、以て、以て、

そののち十家

○寛政二十年十一月廿二日
○寛政二十年十一月廿二日

○寛政二十年十一月廿二日
○寛政二十年十一月廿二日

○寛政二十年十一月廿二日
○寛政二十年十一月廿二日

○寛政二十年十一月廿二日
○寛政二十年十一月廿二日

○寛政二十年十一月廿二日

書容

寛政二十年十一月廿二日

寛政二十年十一月廿二日

大納言

後

有京姓 高百康

志

果我丸自萬

志心修理進位胤志心修理亮志守

坊男

忠之

志心伊久子

秋葉園友志 誠之 隆子 野心 月院

死

忠之

志心右近亮

始實白秀次子仕秀次子害後大傳事
相子也

秀次之代也より少程ありて城に依り
浪人となりて死す

高元

高元

法揚法僧(法圓)の弟なりて高元
元世年中甲府に依りて死す
二月に甲府に依りて死す

忠倫

忠倫

慶長九年甲子父誦に依りて死す
○慶長九年甲子閏四月に書信合
八月丙辰に里方より家方より
九月に里方より死す
法揚法僧の弟なりて高元
年丙辰に依りて死す
死麻布に依りて死す

忠初

三山次郎左馬

享保九年七月廿三日
正月廿一日
八月廿二日
寛保二年正月

忠旅

三山殿左馬 女次郎 治吉

寛保二年正月
三月廿一日
五月廿一日
七月廿一日
九月廿一日
十一月廿一日
正月廿一日
三月廿一日
五月廿一日
七月廿一日
九月廿一日
十一月廿一日

有徳侯殿
孝恭侯殿
宗室侯殿
和陸侯殿
書物徳遠

明和乙子年二月日... 〇美濃乙子年八月日... 日年九月十日...

忠勝

五子... 石...

宝曆十二年九月... 明和乙子年七月... 昔日...

正月... 改元... 九月...

忠有

了百侯

正和乙子年... 改元... 正和乙子年...

[Faint, illegible handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page.]

學道心心 藤系此

萬百五拾表

格格 意心

家紋葉三用
鏡九唯

○ 小室系九馬亮家士意心与午馬系
之會

利拳拳

音心市大室

寛文四拾年二月五日極田屋西院
新小室作儀三人持持○貞重三十五
十月十二日迄延以加保三作儀以之實

年子... 元禄六年... 元禄七年... 元禄八年... 元禄九年... 元禄十年... 元禄十一年... 元禄十二年... 元禄十三年... 元禄十四年... 元禄十五年... 元禄十六年... 元禄十七年... 元禄十八年... 元禄十九年... 元禄二十年... 元禄二十一年... 元禄二十二年... 元禄二十三年... 元禄二十四年... 元禄二十五年... 元禄二十六年... 元禄二十七年... 元禄二十八年... 元禄二十九年... 元禄三十年...

元禄二十九年七月廿五日

利置

元禄十三年七月廿五日... 元禄十四年... 元禄十五年... 元禄十六年... 元禄十七年... 元禄十八年... 元禄十九年... 元禄二十年... 元禄二十一年... 元禄二十二年... 元禄二十三年... 元禄二十四年... 元禄二十五年... 元禄二十六年... 元禄二十七年... 元禄二十八年... 元禄二十九年... 元禄三十年...

八月四日... 中平... 移... 廿... 改... 年...

刻

目録... 卷之二...

嘉保八年... 己年...

政陽

天明... 清八郎... 榎水

久文... 子年... 十... 乙酉... 四月...

月... 金...

朝鮮人來歸漢軍甲級子以招用六月廿
 時在武明和元申年二月在島尾海將
 引接九月廿三日海軍年正月廿二日為
 年四月廿五日法會三月九日招用
 二月廿七日全及夜所招武明年十二月
 廿三日在武明三月廿九日在武明三月
 代是海軍之四月廿九日在武明三月廿九日
 二月廿九日在武明三月廿九日在武明三月
 二月廿九日在武明三月廿九日在武明三月
 二月廿九日在武明三月廿九日在武明三月

嘉慶元年十一月廿九日在武明三月廿九日
 嘉慶元年十一月廿九日在武明三月廿九日

利貞
 嘉慶元年十一月廿九日在武明三月廿九日
 嘉慶元年十一月廿九日在武明三月廿九日

嘉慶元年十一月廿九日在武明三月廿九日
 嘉慶元年十一月廿九日在武明三月廿九日
 嘉慶元年十一月廿九日在武明三月廿九日

東...

源姓

萬三...

家...

丸内花菱
五世...

青石

新... 義... 風... 武... 氏...

畢

...

...

信玄が駿河に討ち入りし時、甲斐守に命じて
 諸將に法を教ふるに、合戦の時名を乃
 働仁威賞とて、是を一紙の元電元
 午年、八月五日、甲斐守に命じて、以て
 賜給ふ。是後、甲斐守の天正十年、八月
 甲斐守に命じて、左大臣とて、
 東照天皇の御代、甲斐守に命じて、
 甲斐守の御代、甲斐守に命じて、
 四月十日、甲斐守の御代、甲斐守に命じて、
 甲斐守の御代、甲斐守に命じて、

小牧陣
 小田原の陣、甲斐守に命じて、
 永正九年、八月十七日、甲斐守に命じて、
 威徳寺を拜

昌次 昌次勲記

昌次、大坂の陣、甲斐守に命じて、
 年十月十日、昌次勲記、在番中、死す。

昌次 昌次勲記

家傳大書の寛永十三年改府在
二十五年交代ははるるなる如く
科より改易の事候に
正徳元年八月廿一日寛永十三年
十一月廿一日改口寺

改帝

寛永十三年
吉沢市御在

勘三

寛文二箇年十月十八日
廣宗三首原物

年四月日
之在年八月廿四日
淨雲寺

改則

寛永十三年

元禄元年十二月十日
子年八月廿一日
十月廿九日

政要

七年の事
其の詳は
其の如し
其の如し

享保元年十一月十九日
享保二年十一月十八日
享保三年七月
九月
十月
十一月
十二月
正月
二月
三月
四月
五月
六月
七月
八月
九月
十月
十一月
十二月

七拾貳歳日寺事

政宗

享保元年

享保元年十一月十八日
享保二年十一月十八日

其の如し

政直

享保元年

享保元年十一月十八日

年十二月十九日半人延口口口年九月
廿日死之孫七歳日守身

改義

吉田勘助

吉田百佳

天保四年九月廿日

源姓

高十百五拾名

吉田

象紋 花菱 菱葉

新元之節義光より吉田心藏

平助

昌興

吉田源助

武田信玄勝頼に仕て後

東照宮御入國の時召出られ

吉田源助

昌長

喜正左近

東照宮より評定代守はのり水に海に
二月廿二日傳在番より死八十九歳

昌成

喜正左近

右徳侯より
歳有経候より守はのり寛文九年
二月廿九日死八十九歳日向守具守具

正親

喜正左近

西保之申年六月晦日守はのり
年十二月廿二日傳在番のり寛文八年
年八月廿二日守はのり元禄十一年
原米と米他は換物に江戸浦番より
のり守はのり守はのり守はのり
守はのり守はのり守はのり

女百死或後之其曹漢守葬

嘉永三年 嘉永三年又多坊 九年節

昌有

源后 恭休

寛延三年二月廿九日^{嘉永}御葬の御曆に
成奉の月十八日大忌書。天保三年
九月十日病歿の日は天保三年八月廿九日
没仕の寛政四年十月十二日死の後
に歳日守葬

昌雄

嘉永三年節

信吉節

天保四年八月廿九日御葬の日は
申年八月廿九日奉之文令田舎主
正位を清くするに九月御葬の日を
之を格日女御殿の御葬の日を
八百死の格女御殿守葬

昌秀

嘉永三年節

嘉永三年八月廿九日

寛政九年十一月九日家書

源姓
青柳
其四百七拾六
氏南部
家茂
井内三階
七菱
植木
氏

源姓

青柳

其四百七拾六

氏南部

家茂

井内三階
七菱
植木
氏

新庄之部義之六代南部長治郎

實之之部南初太郎部長甲別

飯沼之部本井之部之部依之部本

井之部右美重平之部本井之部

義實之部之部 依之部之部

依之部之部 依之部之部

嘉柳因道

義房

娘五人

武高没落後、人志、甲午年、甲辰、
東無言、入國の時、
り、

嘉柳因道

心

東無言、甲辰、入國の時、父、
り、

嘉柳因道、甲午年、
り、

嘉柳因道

方孝

大猷、没落後、
り、

嘉柳因道、甲午年、
り、

嘉柳因道、甲午年、

酒造の権田殿附の以系南子
○天和二年六月十八日死
○享保二年
西系河幸國守等

孝善

高柳勘十郎 庄如

高妻江印年権田出屋守書院番の同家
二月廿四日天和二年六月廿日
没の同三年七月日
天和二年六月廿日

十二卯年六月廿日
六月廿七日

一映

高柳勘十郎

天和二年六月廿日
七年六月廿日
天和二年六月廿日
天和二年六月廿日
天和二年六月廿日

後の正徳四年七月廿七日死。享年五十七。

義望

三柳正徳

後映邑

正徳四年七月二十日卒。享年五十二。
未年二月廿七日卒。享年五十七。
八月廿六日卒。享年六十二。

正峯

三柳正峯

正峯

享保四年七月廿七日卒。享年五十二。
申年十一月廿七日卒。享年五十七。
八月廿六日卒。享年六十二。
八月廿七日卒。享年六十三。
八月廿八日卒。享年六十四。
八月廿九日卒。享年六十五。
八月三十日卒。享年六十六。
九月一日卒。享年六十七。
九月二日卒。享年六十八。
九月三日卒。享年六十九。
九月四日卒。享年七十。
九月五日卒。享年七十一。
九月六日卒。享年七十二。
九月七日卒。享年七十三。
九月八日卒。享年七十四。
九月九日卒。享年七十五。
九月十日卒。享年七十六。
九月十一日卒。享年七十七。
九月十二日卒。享年七十八。
九月十三日卒。享年七十九。
九月十四日卒。享年八十。
九月十五日卒。享年八十一。
九月十六日卒。享年八十二。
九月十七日卒。享年八十三。
九月十八日卒。享年八十四。
九月十九日卒。享年八十五。
九月二十日卒。享年八十六。
九月二十一日卒。享年八十七。
九月二十二日卒。享年八十八。
九月二十三日卒。享年八十九。
九月二十四日卒。享年九十。
九月二十五日卒。享年九十一。
九月二十六日卒。享年九十二。
九月二十七日卒。享年九十三。
九月二十八日卒。享年九十四。
九月二十九日卒。享年九十五。
九月三十日卒。享年九十六。
十月一日卒。享年九十七。
十月二日卒。享年九十八。
十月三日卒。享年九十九。
十月四日卒。享年一百。
十月五日卒。享年一百零一。
十月六日卒。享年一百零二。
十月七日卒。享年一百零三。
十月八日卒。享年一百零四。
十月九日卒。享年一百零五。
十月十日卒。享年一百零六。
十月十一日卒。享年一百零七。
十月十二日卒。享年一百零八。
十月十三日卒。享年一百零九。
十月十四日卒。享年一百一十。
十月十五日卒。享年一百一十一。
十月十六日卒。享年一百一十二。
十月十七日卒。享年一百一十三。
十月十八日卒。享年一百一十四。
十月十九日卒。享年一百一十五。
十月二十日卒。享年一百一十六。
十月二十一日卒。享年一百一十七。
十月二十二日卒。享年一百一十八。
十月二十三日卒。享年一百一十九。
十月二十四日卒。享年一百二十。
十月二十五日卒。享年一百二十一。
十月二十六日卒。享年一百二十二。
十月二十七日卒。享年一百二十三。
十月二十八日卒。享年一百二十四。
十月二十九日卒。享年一百二十五。
十月三十日卒。享年一百二十六。
十一月一日卒。享年一百二十七。
十一月二日卒。享年一百二十八。
十一月三日卒。享年一百二十九。
十一月四日卒。享年一百三十。
十一月五日卒。享年一百三十一。
十一月六日卒。享年一百三十二。
十一月七日卒。享年一百三十三。
十一月八日卒。享年一百三十四。
十一月九日卒。享年一百三十五。
十一月十日卒。享年一百三十六。
十一月十一日卒。享年一百三十七。
十一月十二日卒。享年一百三十八。
十一月十三日卒。享年一百三十九。
十一月十四日卒。享年一百四十。
十一月十五日卒。享年一百四十一。
十一月十六日卒。享年一百四十二。
十一月十七日卒。享年一百四十三。
十一月十八日卒。享年一百四十四。
十一月十九日卒。享年一百四十五。
十一月二十日卒。享年一百四十六。
十一月二十一日卒。享年一百四十七。
十一月二十二日卒。享年一百四十八。
十一月二十三日卒。享年一百四十九。
十一月二十四日卒。享年一百五十。
十一月二十五日卒。享年一百五十一。
十一月二十六日卒。享年一百五十二。
十一月二十七日卒。享年一百五十三。
十一月二十八日卒。享年一百五十四。
十一月二十九日卒。享年一百五十五。
十一月三十日卒。享年一百五十六。
十二月一日卒。享年一百五十七。
十二月二日卒。享年一百五十八。
十二月三日卒。享年一百五十九。
十二月四日卒。享年一百六十。
十二月五日卒。享年一百六十一。
十二月六日卒。享年一百六十二。
十二月七日卒。享年一百六十三。
十二月八日卒。享年一百六十四。
十二月九日卒。享年一百六十五。
十二月十日卒。享年一百六十六。
十二月十一日卒。享年一百六十七。
十二月十二日卒。享年一百六十八。
十二月十三日卒。享年一百六十九。
十二月十四日卒。享年一百七十。
十二月十五日卒。享年一百七十一。
十二月十六日卒。享年一百七十二。
十二月十七日卒。享年一百七十三。
十二月十八日卒。享年一百七十四。
十二月十九日卒。享年一百七十五。
十二月二十日卒。享年一百七十六。
十二月二十一日卒。享年一百七十七。
十二月二十二日卒。享年一百七十八。
十二月二十三日卒。享年一百七十九。
十二月二十四日卒。享年一百八十。
十二月二十五日卒。享年一百八十一。
十二月二十六日卒。享年一百八十二。
十二月二十七日卒。享年一百八十三。
十二月二十八日卒。享年一百八十四。
十二月二十九日卒。享年一百八十五。
十二月三十日卒。享年一百八十六。
十二月三十一日卒。享年一百八十七。

心之

香柳勅七帝

豊永命

天武天皇十一年十一月廿七日有詔
之天皇十一年十一月廿七日有詔
葬

心德

美作守藤原朝臣朝臣男
香柳勅七帝

後助

之皇百七拾石

天武天皇十一年十一月廿七日有詔
香柳勅七帝

之皇百七拾石

源姓

香柳

之皇百七拾石
花菱 割菱
松木丸

香柳勅七帝之皇百七拾石

心考

香柳勅七帝

限右古藤

天武天皇十一年十一月廿七日有詔
之皇百七拾石
香柳勅七帝
天武天皇十一年十一月廿七日有詔
之皇百七拾石
香柳勅七帝

九月廿一日辰時薨逝○之御七歳年十二
月七日没仕○正徳九年十一月廿六日
死

正勝

青柳伊織 源后道春

正徳七年十二月廿日家督○同十一歳
年二月廿日有司道後御者○同年六月廿
八日御者○同十一月廿七日薨逝
○享保元年十一月廿日薨保元年

正徳七年十一月廿二日薨逝
正徳七年十一月廿二日薨逝
正徳七年十一月廿二日薨逝

正道

青柳九助

享保七年十一月廿二日薨逝○同十一
年二月廿日有司道後御者○同年六月廿

英久

美濃守御者英隆
青柳合人

享保十一年十一月廿日薨逝○元文二

己未年三月廿九日午時
年二月二十日午時

英改

英皇御勅
嘉柳新造

延享元年八月廿七日
日知元年八月廿七日
年二月九日
二月廿九日
三月廿九日
三月廿九日

八月廿九日
三月廿九日

英門

英皇御勅
嘉柳新造
德之節

宝曆十二年八月廿九日
宝曆十二年八月廿九日

英真

英皇御勅
嘉柳新造
嘉柳新造

三月廿九日

寛永九年正月廿七日
申年八月廿六日
三月廿八日
官大書

[Faint bleed-through text from the reverse side]

杉田源次

与信

香柳

花菱 花菱別名并鈴國
三益菱 花菱別名

善柳劫之園方者臣男

廿年正月廿六日

今井七三信

孝郡

櫻田殿へ別紙にて
○半人院の元禄十二年十二月廿二日

死因守之券
牛込町可老園

美濃社京市古本入道三郎

吉柳勘四郎

考為

貞享二年十一月十日
貞享三年十一月十日
貞享四年十一月十日
貞享五年十一月十日
貞享六年十一月十日
貞享七年十一月十日
貞享八年十一月十日
貞享九年十一月十日
貞享十年十一月十日
貞享十一年十一月十日
貞享十二年十一月十日
貞享十三年十一月十日
貞享十四年十一月十日
貞享十五年十一月十日
貞享十六年十一月十日
貞享十七年十一月十日
貞享十八年十一月十日
貞享十九年十一月十日
貞享二十年十一月十日
貞享二十一年十一月十日
貞享二十二年十一月十日
貞享二十三年十一月十日
貞享二十四年十一月十日
貞享二十五年十一月十日
貞享二十六年十一月十日
貞享二十七年十一月十日
貞享二十八年十一月十日
貞享二十九年十一月十日
貞享三十年十一月十日

百歳子の如の校の同の年の一の月の初の外の如の校
七の年の一の月の初の外の如の校

考次

貞享二年十一月十日
貞享三年十一月十日
貞享四年十一月十日
貞享五年十一月十日
貞享六年十一月十日
貞享七年十一月十日
貞享八年十一月十日
貞享九年十一月十日
貞享十年十一月十日
貞享十一年十一月十日
貞享十二年十一月十日
貞享十三年十一月十日
貞享十四年十一月十日
貞享十五年十一月十日
貞享十六年十一月十日
貞享十七年十一月十日
貞享十八年十一月十日
貞享十九年十一月十日
貞享二十年十一月十日
貞享二十一年十一月十日
貞享二十二年十一月十日
貞享二十三年十一月十日
貞享二十四年十一月十日
貞享二十五年十一月十日
貞享二十六年十一月十日
貞享二十七年十一月十日
貞享二十八年十一月十日
貞享二十九年十一月十日
貞享三十年十一月十日

貞享十六年十一月十日
貞享十七年十一月十日
貞享十八年十一月十日
貞享十九年十一月十日
貞享二十年十一月十日
貞享二十一年十一月十日
貞享二十二年十一月十日
貞享二十三年十一月十日
貞享二十四年十一月十日
貞享二十五年十一月十日
貞享二十六年十一月十日
貞享二十七年十一月十日
貞享二十八年十一月十日
貞享二十九年十一月十日
貞享三十年十一月十日

二百九十九日世祖の定保二成平病免
○延享二年七月十九日没仕の宝曆
三年一月十九日死七拾二歳以守

孝帝

孝帝
嘉柳七九号 百二物

享保十一年六月九日皇子の延享二
年七月十九日没仕の以之寶二年六月
廿九日没仕の宝曆三年六月廿九日
死七拾二歳以守

方脩

嘉柳七九号

享保三年一月十九日没仕の以之寶二年六月廿九日没仕の宝曆三年六月廿九日死七拾二歳以守

方毅

嘉柳七九号
嘉柳七九号 七九号

宝曆三年十一月十九日皇子の以之寶
二年九月十九日没仕の以之寶二年九月十九日没仕の以之寶
享保三年十一月十九日没仕の以之寶

日守

者莊

吉柳如白柳

大花 古

天保九年九月廿五日

天保九年十二月廿五日

天保九年十二月廿五日

天保九年十二月廿五日

天保九年十二月廿五日

天保九年十二月廿五日

延福寺の月八夜年十二月廿九日

〇月廿九年一月廿五日

大猷院

源姓

青柳

青柳因正信二男

言三白儀

家紋

刺菱 井幹 白三條菱
花菱 丸月 榎木 凡

自利

青柳新到

正保三年十一月廿七日
百歳後人後持の自利
正保三年十一月廿七日
存年六月十日

年一痛失の室山七郎年七月廿七日死
市谷月徒守年

某

天

三柳新九郎

吾子の大名者の三條守正年二月
百二條在吾中死

自寛

三柳半左衛門

次男忠成の自傳の室保二百年二月

九百大室の以九存年十月廿六日新田
の守一年年十月七日死以守年

英考

美三柳半左衛門守正
三柳大八

享保十一年年十二月廿七日老翁の死
以十三年年九月廿七日常成近習
者の病死者室屋の守年四月十日
仕の寛政二年年七月廿七日七條
牛の京所幸國守年

西貢

貞貞三男

嘉柳山

宝曆二年八月廿二日
年四月十日
廿七日
大坂在番中
葬

忠貞

三津田
嘉柳山

宝曆二年八月廿二日
二年二月
六月九日
死之

忠人

嘉柳山
宝曆七年

年十月廿九日

Handwritten text in a rectangular frame, likely a letter or official document, written in cursive style.

右徳院殿御代

源姓

吉柳

言二千五儀之技
家紋 此白水之字

依行家志流常以行乃郡吉柳

村子伝方く氏とと吉柳吉柳

義兼忠氏

吉柳吉柳

言親

元和九年... 吉柳吉柳

高松

高柳伊三郎

高松五年一月廿四日地方の義兵
元年一月廿四日地方の義兵
高松五年一月廿四日地方の義兵
元年一月廿四日地方の義兵
高松五年一月廿四日地方の義兵
元年一月廿四日地方の義兵

高松

高柳伊三郎

九年

高松五年一月廿四日地方の義兵
元年一月廿四日地方の義兵
高松五年一月廿四日地方の義兵
元年一月廿四日地方の義兵
高松五年一月廿四日地方の義兵
元年一月廿四日地方の義兵

高松

高柳伊三郎

高松

高松

高松五年一月廿四日地方の義兵
元年一月廿四日地方の義兵
高松五年一月廿四日地方の義兵
元年一月廿四日地方の義兵
高松五年一月廿四日地方の義兵
元年一月廿四日地方の義兵

六百四十四箇年四月廿九年十二月廿五日

四百四十四箇年四月廿九年四月廿五日

六百四十四箇年四月廿九年四月廿五日

六百四十四箇年四月廿九年四月廿五日

六百四十四箇年四月廿九年四月廿五日

六百四十四箇年四月廿九年四月廿五日

六百四十四箇年四月廿九年四月廿五日

六百四十四箇年四月廿九年四月廿五日

六百四十四箇年四月廿九年四月廿五日

六百四十四箇年四月廿九年四月廿五日

六百四十四箇年四月廿九年四月廿五日

六百四十四箇年四月廿九年四月廿五日

六百四十四箇年四月廿九年四月廿五日

六百四十四箇年四月廿九年四月廿五日

六百四十四箇年四月廿九年四月廿五日

六百四十四箇年四月廿九年四月廿五日

六百四十四箇年四月廿九年四月廿五日

奉為度後叙山新身山定信開○以中
年九月改之在屋大道在久而修後
開○以六月年一月有死之程去來
以守身

高伯

高柳伊左馬 豐前守 伊左馬
高柳伊左馬 伊左馬

如永六月年九月七日家傳○工部文記
年九月以中官為九月始方○以六月年
以中九月初○月公軍年一月十八日五配勳

○當改之三年一月以中官關東勳門
以書信同論人入之令吟味之如一種開
以中子年六月九月在後程後方教○以
以九月十日吟味以○以中子年九月
在九月十日吟味以○以中子年九月
關白山修後開○以七月年一月以中官
獲根指教○以九月十日中官定吟味方
改以並新紀之令書之○以中子年七月十
六月十日中官定吟味以○以中子年七月十日

貞治元年二月廿七日... 康保元年二月廿八日... 定以月晦日... 貞治元年六月... 女子... 致

大猷院

源氏

喜柳

言三白傳

家致 刻美并幹落美 九月極本凡

青柳肉通正信長男

方孝

喜柳勅書信

大猷院... 勅書...

納戸... 慶長元年九月...

山崎... 天利...

年六月十八日死...

葬

○ 道孝

高柳勘左衛門 外三郎

正保年中新の石前の正書院告
二言儀の卷の末の寛文九年九月旨
最右の後の御の内の口の口の拜の年の山の小の姓の終の
貞享元年二月の口の口の死の日の寺の葬

英澄

高柳勘左衛門

内記

貞享元年七月の口の口の告の事の以の元の陣
年六月の口の口の書の院の告の日の口の口の年の十月の告の
文徳院の御の内の口の口の書の院の告の日の口の口の年の十月の告の
十月の口の口の告の日の口の口の年の九月の口の口の日の
死の七の日の口の口の告の日の口の口の年の十月の告の

英勝

高柳勘左衛門

享保九年十一月廿六日
十月廿二日
九月廿六日
八月廿七日
七月廿七日
六月廿七日
五月廿七日
四月廿七日
三月廿七日
二月廿七日
一月廿七日

英春

享保九年十一月廿七日
十月廿七日
九月廿七日
八月廿七日
七月廿七日
六月廿七日
五月廿七日
四月廿七日
三月廿七日
二月廿七日
一月廿七日

享保九年十一月廿七日
十月廿七日
九月廿七日
八月廿七日
七月廿七日
六月廿七日
五月廿七日
四月廿七日
三月廿七日
二月廿七日
一月廿七日

英武

享保九年十一月廿七日
十月廿七日
九月廿七日
八月廿七日
七月廿七日
六月廿七日
五月廿七日
四月廿七日
三月廿七日
二月廿七日
一月廿七日

十日

長親君の御書
延慶元年九月二十日
鴨射御所
上院
四日
上院
上院
上院

長親君

言武由儀

青野

長政

九曜
松向梅

源姓

世良田右衛門長親

松平基右衛門

右京亮

義春

御書
伊勢新九郎七川
向一足博識と政方所

長親君に後活ありし時ありとあり
吉野と親志は清くは秋の後三羽首良
存滅亡の事同氏東條の義照も吉野滅亡は
片

東照官に親志と東條と福り東條太京元
義志といひて是れ救方誠切ありし中弘治
二年二月廿日三羽首近城と改めしと
いひけりし行念代は三羽首法橋と厚
外也揚と云ふ軍卒悔しむるを討城は矣

平久急情討て心義法は織元と見知りて是
より此義志痛多し有後見し尤も厚か
知事代も不知

青龍源十所

心妻

妾腹におは成人し
庚忠今ふはかた父依り地志は此標号
の十分者志是妹十分者くふ

廣忠若くは侍りて女に物り奉る人の天女十
年二月六日自是始る

東照文より進むるに河妻河上より
心春も河上所用と初七夜に枕あり
侍りし河上枕とて歎け思ひあはして御袍
永承之貴文と名に之刻し病死年月葬地
不知

河上妻

心信

東照文より進むるに河妻河上より
心春も河上所用と初七夜に枕あり
侍りし河上枕とて歎け思ひあはして御袍
永承之貴文と名に之刻し病死年月葬地
不知

おとどくをさかたむけし能目りなきを殺れ
えのこころはけりなきをいひつゝくまはたの後片
日ふり死

心次
伝文

東照公へ父とてふもは雨きし陳佐と大徳の
後小寺に謀大徳とては使ひしりく勤りいふ
後徳の同く後みりせりし陣場とては

所本丸のうらに書後とのえおのひ月後
ゆわくは書徳のうらか徳とては
新者よとて徳の田中の所徳へは
四郎徳とては徳の書徳のうら後の中徳
徳とては徳の徳徳とては徳のうら
徳とては徳の徳徳とては徳のうら
徳とては徳の徳徳とては徳のうら
徳とては徳の徳徳とては徳のうら

心書

衣更

父の衣更……紀行の如き……
かの百景……
死因……

心書

衣更

心書

元禄九年……

元禄九年……
三月……
四月……
五月……
六月……

高貴

赤野 在史

大松軒市房為忠源次男

享保六年十一月廿二日尊吉子○因七年
二月廿日身歿小當道之元父曰年二月廿日
田妻山左浦勲女○因寛保二年正月十六日
去院敷○安永六年十月六日身歿小當道
令武校○同日十月廿日死七十二歲因吉孫

高貴

在史 万助 志十郎

二男惣代 是迄三子 ○宝曆元年十月十五月初
九○安永六年七月十日身歿小當道○因七
年二月十日山左浦意大物○廣永時版○
因八月廿六日身歿○因十月廿日身歿
因八月廿六日身歿○因十月廿日身歿
年同十月廿六日身歿○因十月廿六日身歿
美若附○因九年十月廿六日身歿○因九年十月廿六日身歿



正章

庶吏 古書

天祖文江源平文法之勇

天祖元年十二月十日養子の同六年四月十日
 常上元馬坊丸約上賢之約二及の貴近六年
 十月十日平河右院敷の同七年二月八日小倉系
 所莊持近持馬の同八月六日中白事院院陰
 洲上賢友約二の同八月十日元元初の
 同九年十月十日元元初の

